

県政この一年



平成25年の県政の動きを、「福井新々元気宣言」の4つのビジョン「元気な産業」「元気な社会」「元気な県土」「元気な県政」に沿ってご紹介します。

元気な産業

技術と戦略で勝ち抜く福井の産業

新成長産業を創出

福井のものづくり技術や先端技術を活用し、新しい分野への参入を目指す企業を支援しています。7月に、企業、大学、行政機関等で構成する「ふくい医療産業創出研究会」を設立。産学官が連携して、医療分野の技術開発や製品開発を進めています。

また、炭素繊維を用いた次世代自動車を開発する国の研究プロジェクトに、福井県が自治体として唯一参画。本県が特許を持つ「炭素繊維を薄く広げる技術」などを活用し、東京大学や名古屋大学、自動車メーカーなどと協力して超軽量自動車の開発を目指しています。

産業団地の整備を支援

嶺南の経済振興と雇用の確保につなげるため、市町が進める産業団地の整備を支援。将来の産業の核となる企業の誘致を目指します。現在、敦賀市と美浜町がそれぞれ実施している地質調査や用地測量を支援しています。

新しい方向をひらく農林水産業

福井米のブランド化を目指す

今年2月に日本穀物検定協会の食味ランキングで「特A」評価を獲得するなど、福井県産のコシヒカリが高い評価を受けています。

福井米のさらなる販路拡大のため、大粒のみを選りすぐった「限定コシヒカリ」の首都圏への販売に力を入れていきます。さらに、福井米の品質と食味をさらに向上させた、コシヒカリを超える「ポストこしひかり」の開発を進めています。

国による米の生産調整の見直しやTPP（環太平洋戦略的経済連携協定）交渉など、制度見直しの影響等を議論するプロジェクトチームを設置。新たな農業・農村再生計画に活かすとともに、国に対し支援の充実を働きかけていきます。

観光とブランドを産業の柱に

北陸新幹線金沢開業に向けた誘客

北陸新幹線の金沢開業に向けて、ダントツブランドの「恐竜」や、おいしい「食」など、福井の魅力を首都圏の皆さんに知ってもらうことが重要です。

そこで、8月に東京駅周辺で、恐竜の全身骨格を展示する「大恐竜展in丸の内2013」や、焼き鯖寿司や地酒など福井の産品を販売する「福井の食フェスタ」などを開催。首都圏に向けて福井の魅力を大いにアピールしました。

来年1月に埼玉県のごう大宮店で初めて「越前・若狭の物産と観光展」を開催するなど、今後も首都圏および新幹線沿線からの誘客拡大を図ります。

嶺南地域の消費を拡大

県外や嶺北から観光に訪れる方を増やし、嶺南地域の消費を拡大するためのキャンペーンを12月から開始しました。嶺南地域以外にお住まいの方を対象に、買い物や食事、宿泊などで支払った金額の一分割に相当する、鯖のへしこや若狭塗箸などの特産品や、飲食店の食事券などをプレゼントします。

また、嶺南の海・里・山の幸が満載の昼食メニュー「若狭路ご膳」には、ふぐ定食やぼたん鍋など冬限定の特別メニューが登場しています。ぜひこの機会に、嶺南地域の観光をお楽しみください。

元気な県政

国体めざす県民スポーツ、生活のなかに楽しむ県民文化

一流の芸術作品に触れる

県立美術館では6月から8月にかけて、通常イタリア国内でしか見ることのできない「ミケランジェロ展」を開催。県内外から多くの西洋美術ファンが集まりました。

11月から12月まで開催した「岡倉天心展」では、天心の生誕150年、没後100年の節目に、福井が生んだ偉人の功績を、近代日本画や彫刻の名品、豊富な資料で紹介しました。これら特別展の年間入館者数は、昭和52年の開館以来、初めて10万人を突破。県内外から多くの方に訪れていただけるよう、今後も業敵な企画を工夫していきます。

野球を通して国際交流

8月に、王貞治さんが理事長を務める世界少年野球推進財団と協力し、嶺南地域で「世界少年野球大会」を開催しました。15の国と地域から300人を超える子どもたちが参加。試合や野球教室を通して交流を深めました。

大会には、幸福の国として知られ、本県と交流のあるブータン王国が初参加。9月にはブータンの若手公務員が、福井に2週間滞在し、農業や伝統産業について研修しました。今後も、ブータンの若者に福井を訪れてもらうなど、交流を深めていきます。

福井の食を首都圏へ発信

4月に、福井のおいしい食べ物を提供するアンテナショップ「食の國 福井館」を東京・銀座にオープンし、11月には福井の鮮魚店や生産者とテレビ電話で結んでの対面販売を開始しました。

なお、12月、ユネスコの世界無形文化遺産に「和食」が登録された際の、国の提案書では、紹介された23の具体例のうち、3件が福井の活動でした。これは全国で最も多く、登録に大きく貢献したと考えられます。こうしたことを追い風に、本県の食文化を広め、一層の販路開拓・拡大を目指します。

敦賀港が便利に

4年連続でコンテナ取扱貨物量が過去最高となった敦賀港では、11月にコンテナ・フレート・ステーション(CFS)を新たに建設。小口の荷物をコンテナに詰め合わせ、すぐに船へ運ぶことができるため、スムーズな荷さばきが可能となりました。荷主や物流業者の方は、便利になった敦賀港をぜひご利用ください。

園芸生産を拡大

自然光を利用した大型ハウスの整備を支援。四季を通じて野菜などを生産し、産出額を伸ばします。平成24年度に高浜町に完成したハウスでは、今年度から越のルビーの栽培を開始しました。また、生産の拡大と新規雇用の増加のために、空き工場等の屋内でLED等を利用した大規模な植物工場の整備を支援します。

進化するダントツブランド 恐竜

全身の9割以上が残る貴重な「カマラサウルス」の全身骨格化石が常設展示に加わり、一層魅力がアップした恐竜博物館。今年の特別展では、25年にわたる発掘の成果を一挙に披露。8月には、秋篠宮様ご一家が2日間にわたりご視察されました。入館者数は、11月末時点で過去最高の54万人を上回り、今年度は70万人が見えてきています。

来年の夏には、恐竜の足跡の実物化石の見学や、発掘現場を体感しながらの化石発掘体験ができる野外恐竜博物館をオープンします。年々進化する恐竜博物館に、ぜひお越しください。

また、生産の拡大と新規雇用の増加のために、空き工場等の屋内でLED等を利用した大規模な植物工場の整備を支援します。

国体の開催内定・マスコットキャラ決定

今年は、スポーツ分野で子どもたちの活躍が目立ちました。バドミントンの山口茜選手は世界トップクラスの大会で日本人初の優勝。ホッケーの丹生高校は、インターハイと国体の二冠を達成しました。そして春の甲子園には、敦賀気比高校と春江工業高校が揃って出場しました。

5年後の平成30年には、「福井しあわせ元気国体」が開催されます。7月には、開催が正式に内定しました。大会に向け、元オリンピック選手などを招いて競技力の強化に努めており、今年の東京国体では、特に強化指定選手の高校生の活躍により、昨年を上回る得点を獲得するなど、成果が現れています。

12月には1万件を超える応募の中から大会マスコットキャラクターの名前が「はびりゅう」と決定しました。子どもからご年配の方まで、県民一人ひとりが関わる「みんなで感動を共有できる国体」を目指し、一緒に機運を盛り上げていきましょう。

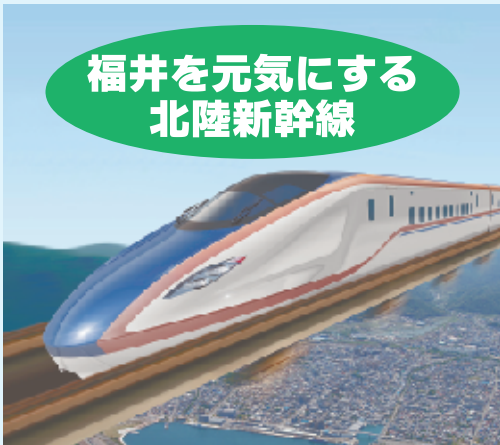
国体マスコットキャラクター「はびりゅう」

北陸新幹線の早期開業を目指して

新北陸トンネルの工事発注など、北陸新幹線の整備が進んでいます。敦賀開業は、金沢開業から10年強後の平成37年度とされています。しかし、金沢から先が進まなければ、北陸全体で年間800億円とされる経済効果が失われることになり、できるだけ早い開業が必要です。

そこで、工期短縮の方策を、県独自に検討。工法や工程を工夫すれば、予定より少なくとも3年は早く開業できることを、政府や与党に提案しました。

工期短縮の決定を長引かせても何も良いことはなく、北陸地域全体に等しく開業効果を発現させるためにも、引き続き大幅な工期短縮を強く求め、一日も早い敦賀までの開業を目指します。



福井を元気にする北陸新幹線

元気な県土

県土に活気の高速交通時代

高速道路の整備

3月に、中部縦貫自動車道の勝山・大野間が開通しました。来年度には福井北・松岡間が、平成28年度には永平寺東・上志比間が開通し、北陸自動車道から大野市までつながる予定です。舞鶴若狭自動車道は、小浜IC側から順次、舗装していくなど、来年度の全線開通を目指して着実に工事が進められています。この開通を機に嶺南・嶺北の相互交流の活発化や、県外からの誘客拡大を図る「海湖と歴史の若狭路」発信事業実行委員会を立ち上げました。

来年7月から11月までの大型の観光キャンペーンに向けて、準備を進めます。

災害からの迅速な復旧

9月の台風18号では大きな被害が発生しました。常神半島の遊子地区の仮設橋や、若狭町野木川の仮堤防などの応急工事を迅速に進めました。今後一日も早い本格的な復旧を目指します。

日本一の安全・安心

原子力安全対策を強化・人材育成で貢献

6月に美浜原子力発電所の5km圏内の全住民およそ1000人を対象とした原子力防災訓練を実施。その検証結果や、国の指針などを踏まえ、7月に原子力防災計画を改定しました。今後は、県外の具体的な避難先を年度内をめどに決定し、避難ルートや移動手段等については、国に対し今年度のできるだけ早い時期に方針を示すよう求めています。

また、原子力に関する人材育成について、10月に国際原子力機構(IAEA)と覚書を交わしました。これを受けて、研修の対象をアジアから中東諸国へ拡大。12月、研修生をカタールから受け入れました。原子力発電の先進地として、世界に貢献できる国際的な拠点を目指します。

国のエネルギー政策に方向性

西川知事が委員を務める国の調査会は、原子力を「基盤となる重要なベース電源」と位置づける「エネルギー基本計画に対する意見」を取りまとめ、我が国における原子力発電の重要性や必要性が明確になりました。今後はこの計画を、国が自信と責任をもって国民に対して説明し、政府が一体となって計画の具体化を図る必要があります。

また、いずれ生じてくる原子力発電所の廃炉等の問題を前向きにとらえ、10月に「廃炉・新電源対策室」を全国に先駆けて設置。今後、国内外の最新の情報収集や、技術的な課題の整理と対応、関連ビジネスの育成など、様々な対策を検討し、実行します。

元気な社会

すぐれた医療と支えあいの福祉

がん予防、早期発見・早期治療日本一へ

今年度から、検診に必要な受診券の発行対象を、これまで職場で受ける機会がなかった中小企業の社員にも拡大。さらに、インターネットで24時間いつでも検診の予約ができる「がんネットふくい」の運用を開始。よりがん検診が受けやすくなりました。

また、県立病院の「陽子線がん治療センター」では、身体に負担の少ない先進的な陽子線治療を行っています。年度内には、がんの形状に合わせて陽子線を照射する世界初のシステムを導入し、より精度の高い治療が可能となります。がんは早期発見が大切。定期的にがん検診を受けましょう。

豊かな環境、もっと豊かに

里山里海湖を世界に発信

福井の豊かな里山が世界的に評価され、9月に国際会議を福井で開催。国内外の研究者など、約30か国から130人の専門家が参加。里山の保全と活用について議論を交わしました。参加者には里山体験や、三方五湖などの現地視察を通じ、福井の里山の良さを実感していただき、福井の魅力を国内外にアピールすることができました。

この成果を活かし、10月には三方五湖の湖畔に里山里海湖研究所を開設。子どもから大人まで気軽に集い、意見を交わしながら、里山の恵みを人々の暮らしに結び付ける方法を研究します。ぜひ、お立ち寄りください。

また、水月湖の年縞が、化石などの年代を測定する世界標準となり、世界で最も正確なものさしとして採用されました。年縞の研究をさらに進め、教育や観光などに活かします。



年縞のボーリング調査

日本のモデル「福井の教育」

夢と希望を育てる学校へ

福井の子どもたちの学力・体力は全国トップクラス。県では、学力の質をさらに高め、子どもたちが夢や希望を実現できるよう、ゼロ歳から高校までの「福井型18年教育」を進めています。

幼児教育では、研修などを通して幼稚園・保育園・小学校の先生の相互理解を深め、スムーズな移行を目指しています。また、全県的に中高の接続を重視した授業改善を進めており、特に平成27年4月には、県立高志高等学校に1学年3クラスの附属中学校を設置。中高間で授業内容の一部を入れ替えるなど弾力的な教育ができる中高一貫教育を導入します。

英語を身に付け世界で活躍

高校生100人をアメリカへの語学研修に派遣したり、ALT等と日常的に英語で会話するイングリッシュ・シャワー、英語だけを使って生活する高校生英語キャンプを実施しています。9月からは、国の制度に先駆けて、小学4年生から県独自の英語の学習を始めました。グローバル化が進む社会で将来活躍できるよう、子どもたちの英語力を高めていきます。



英語への興味を高める小学4年生

漢字教育をレベルアップ

進んだ漢字教育を実践している教員等を表彰する「白川静漢字教育賞」を新たに創設。12月、全国から選ばれた教員など4人が表彰され、それぞれの活動内容を発表しました。優れた事例を県内外に発信することで、全国の漢字教育のレベルアップを福井県が先導します。

若者のチャレンジと女性の活躍を応援

家庭での子育てを応援

保護者が仕事を続けながら家庭で子育てができるよう、全国で初めて、企業による育児休業の取得奨励など、子どもを3歳になるまで家庭で育てることができる環境の充実に着手。企業の皆さんは、奨励金制度などを、ぜひご利用ください。